

岡崎ものづくり推進協議会だより Vol 8

自社のPRと情報収集にお役立てください！

～岡崎ものづくりネットワーク HPをリニューアル！～

このたび、内容の充実を図るとともに、デザインを一新しました。今回の目玉として「極み企業」「環境改善に積極的に取り組んでいる企業」「現場改善事例」の3項目を取り上げました！

この3項目については、月1回のペースで更新していきますので企業のPR活動にお役立てください。

また、本協議会のニュースをはじめ、大学や関連機関の情報も盛りだくさん掲載しますので、“ここぞ”という時には是非ご活用ください！



<http://www.okazakicci.or.jp/monotsukuri/>

担当：神谷・平野 53 - 6191

ものろぐ vol 2

人間環境大学ものづくり研究会

～伝統的なものづくり再発見～ 彫刻家・江坂兵衛さん ひょうえ

2005年12月15日、岡崎在住の彫刻家・江坂兵衛さんを訪ねました。江坂さんは父・鐘平さんとともに親子二代で山車（屋台）の彫刻をつくってきた彫刻師さんです。鐘平さんが遠州の方と交流があり、遠州では20基ほどの山車に携わりましたが、岡崎でも活躍されています。みなさんご存知でしたか？ 岡崎神明宮大祭の時に曳きまわされる松本町の山車。あの彫刻は江坂鐘平・兵衛親子によってつくられたものなのです。今度、祭りに行ったら是非チェックしてみてくださいね！

さて、昭和3年生まれの江坂さんは、少年時代は戸崎町の刀鍛冶・筒井清兼さんのもとで刀研ぎをしていました。戦時中のため仕事がたくさんあったそうですが、その戦争で兄を失い、「人斬り包丁」をつくるのが嫌になり、戦後は彫刻の道を求める旅に出ます。堂宮彫刻師として根からの職人であった父（龍を彫らせたなら右に出るものはいなかったそうです）のもとを、半ば逃げるように東京や京都に出ては「美術」としての近代彫刻を学びます。しかし、展覧会という学歴を前提にした評価の仕組みに疑問を感じ、独自の道を模索。山車の仕事に携わりながらも、江坂さんは常に「彫刻師」（職人）と「彫刻家」（芸術家）の間を行き来してきました。その生き方は近代日本の伝統工芸が背負ってきた宿命を映しているようにも感じられました。

そんな江坂さんの人生には「戦争」と「人との出会い」が大きく関わっているなあと私は感じました。人生を乱す戦争、その人生をつなげる人との出会い。そして、美術と工芸、芸術家と職人の違いとは何なのか、そんな問いをこの取材は私たちに投げかけてきました。
(鈴木綾香)



江坂さんを取材するメンバー

もっと私たちの活動を知りたいと言う方は下記のアドレスへ...
ものけんHP http://www.geocities.jp/monoken_521/

